

**第 95 回大腸癌研究会 遺伝性大腸癌委員会
議事録**

● 日時：令和 3 年 7 月 1 日（木）09:30～10:00

● Web 開催 (Zoom)

● 出席者：

〔委員長〕 富田尚裕

〔委員〕 赤木 究、新井正美、石岡千加史、石川敏昭、石川秀樹、石田秀行（代理：母里淑子・近谷賢一）、石田文生、石丸 啓、上野秀樹（代理：永田 健）、隈元謙介、小泉浩一、小林宏寿（代理：茂原富美）、小森康司、坂本一博、佐々木和人、菅野康吉、須藤 剛、首藤朝也、須並英二、関根茂樹、竹内洋司、田中屋宏爾、田村和朗、千野晶子、問山裕二、長崎寿矢、中島 健、能浦眞吾、長谷川博俊、檜井孝夫（代理：利田明日香）、平田敬治、松原長秀、松原孝明、松本主之、三口真司、宮倉安幸、三代雅明、山口達郎、山田岳史、山田真善、吉田直久、吉松和彦（五十音順、敬称略）

〔オブザーバー〕 河野眞吾、高雄美里、高雄 akinari、藤吉健司、別府直仁 以上、49 名

● 欠席者：委員リストからの欠席者は 3 名のみであった。

● 報告・審議事項

1. 前回議事録の確認

2. 前回委員会以降の委員の交代・異動等の報告

所属先変更：小泉浩一委員 東京都保険医療公社 多摩北部医療センター内科

菅野康吉委員 佐々木研究所附属杏雲堂病院 遺伝子診療科

中島 健委員 京都大学大学院医学研究科 医療倫理学

委員新任： 須藤 剛委員 山形県立中央病院 外科

以上 4 名の先生から簡単なご挨拶あり。

* 後日、新規オブザーバー参加として、本日出席の別府直仁先生（兵庫医科大学下部消化管外科）をリストに登録。（最新の委員・オブザーバーリスト→別添資料 1）

3. 遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2020 年版の英文化：“Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Guidelines 2020 for the Clinical Practice of Hereditary Colorectal Cancer.” Tomita N. et al. 2021 年 1 月に Int J. Clin Oncol にアクセプト。その後、校正作業の遅れあり、6 月 28 日に最終校正完了、6 月 29 日に Open Access (<https://doi.org/10.1007/s10147-021-01881-4>) にて発刊となった。広報委員会に報告を行い、近日中に大腸癌研究会 HP に掲載予定。

4. FAP 一次研究の論文作成：“Morphological analyses of adenocarcinomas in Japanese familial adenomatous polyposis patients.” Suzuki Y. et al. 現在、共著者全員の確認・英文校正が完了し、Journal of the Anus, Rectum and Colon (JARC) に投稿予定。

* その後、7 月 5 日に投稿となった旨、報告あり。

5. 2 件の臨床研究のプロトコール改訂（マイナー改訂）について

前述の委員交代・異動および委員会名称変更（家族性大腸癌委員会→遺伝性大腸癌委員会）に伴うプロトコール改訂を近日中に行う。6 月 30 日施行の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（統合指針）によると、中央の大腸癌研究会の IRB 審査（迅速審査）だけで参加施設個別の審査は不要と思われる。

*後日、7月13日に、この2件の改訂について大腸癌研究会（倫理委員会）宛て倫理審査申請書を提出した。

6. 2件の臨床研究の進捗状況についての報告

前回1月の委員会での決定通り、1月末で登録を終了し、事務局（都立駒込病院、山口達郎委員）でデータクリーニングを行った。これについては都立駒込病院勤務のアシスタントの方に依頼し、2ヶ月余の業務に対して20万円の経費を出費した旨の報告あり（富田委員長より）。次いで、2件の臨床研究についての現時点での論文作成案がそれぞれの担当委員から示され、今後調整を継続していくことが確認された

・FAP二次研究『家族性大腸腺腫症(FAP)に関する後方視的多施設共同二次研究』の進捗状況の報告と論文作成（担当の山口達郎委員より →別添資料2）

最終登録施設数：15施設、最終登録症例数：632例

・LS二次研究『後方視的観察研究による日本人リンチ症候群の大腸病変に対する消化器内視鏡研究』の進捗状況の報告と論文作成（担当の田中屋宏爾委員より →別添資料3）

最終登録施設数：13施設、最終登録症例数：316例

また、前述の小泉浩一委員の異動に伴い、LS二次研究の事務局業務をがん研有明病院下部消化器内科の千野晶子委員が引き継いでを担当することが報告された。

7. 2件の臨床研究の論文執筆に際しての co-authorship（共著者）の原則について

FAP二次研究：筆頭著者の施設から筆頭著者を含めて1-3名（論文作成の貢献に応じて）・山口達郎（FAP二次研究担当・総合事務局担当）・富田尚裕（研究代表者・遺伝性大腸癌委員会委員長）・杉原健一（大腸癌研究会会長）・その他、投稿規定上で余裕があれば登録数の多い施設から数名（この部分は事務局と委員長に一任していただく）。

LS二次研究：筆頭著者の施設から筆頭著者を含めて1-3名（論文作成の貢献に応じて）・田中屋宏爾（LS二次研究担当）・千野晶子（LS二次研究事務局担当）・山口達郎（総合事務局担当）・富田尚裕（研究代表者・遺伝性大腸癌委員会委員長）・杉原健一（大腸癌研究会会長）・その他、投稿規定上で余裕があれば登録数の多い施設から数名（この部分は事務局と委員長に一任していただく）。以上、富田委員長より提案があり、承認された。

また、論文作成に要する経費については英文校正費くらいは委員会経費で負担したい旨、またその他の経費についても相談して欲しい旨、委員長から報告があった。

8. FAP患者のWT-1ワクチン治験の紹介（石川秀樹委員・竹内洋司委員より）

上記の概要の説明があり、該当する患者さんがあれば、紹介して欲しい旨の依頼があった。

9. その他

・日本消化器病学会附置研究会「がんゲノム医療時代における Lynch 症候群研究会」の研究の一部として作成したリンチ症候群を紹介する小冊子を本委員会のメンバーに配布したい旨、石川秀樹委員よりアナウンスあり、了承された。 *後日、7月9日に委員会の委員・オブザーバー宛メール配信あり。

・2件の臨床研究については論文作成段階までできたが、現在の担当委員2名はかなり負担過重の状態でもあり、特に他の委員で新規臨床試験のアイデアなどがあれば、是非とも提案いただきたい（例えば、大腸癌症例のがん遺伝子パネル検査で二次的所見として抽出されてきたリンチ症候群疑いの症例集積研究などはどうか？）とのアナウンスが富田委員長よりなされた。

（文責：富田尚裕）